

戦後における指定蚕品種の系譜について

誌名	蠶絲試験場彙報
ISSN	03853594
著者	関戸, 一正
巻/号	94号
掲載ページ	p. 59-67
発行年月	1970年12月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



戦後における指定蚕品種の 系譜について

関 戸 一 正

はじめに

蚕品種の各種性状を詳細に知悉することは蚕糸に関する生産活動を行なううえにきわめて大切なことであるのはもちろんであるが、蚕の育種の場合においてもきわめて重要なことである。

蚕品種の性状を知る一つの方法としては、その品種が育成の過程においていかなる品種を基礎品種として導入しているかを知ることであり、そのことによってほぼその品種の性状を推察することができる。

蚕品種育成の場合においてはあらかじめこのことを想定して導入する基礎品種をそれぞれの育種目標に応じて選定している。とくに三元、四元雑種の育成にあたっては、その品種の導入した基礎品種を知ることによって交雑合性の予測をある程度可能にし、交雑相手の選定が容易になるので、育種効率を高めることができる。

以上のような考えから多少なりとも蚕品種の育成ならびに取り扱いのうえに参考になればと思い、第2次世界大戦後の昭和21年から昭和44年までに国の指定品種となったものにつき各原種の育成素材について調査した結果を報告する。

この調査はすでに各育成者から種々の機会において発表されたもの（主として蚕糸試験場および蚕糸科学研究所の育成品種）のほかは今回とくに従来は育種家の間においては基礎品種や、育成方法などについては極秘事項とされていたものを特別のご好意によって公開していただいたものであって、故小針喜三郎博士をはじめ各選出育成者に対して厚く感謝の意を表する次第である。

なお、選出育成後長い年月を経たものや、育種担当者の交替などによって記録の不明になったもの、育成場所の都合で公開するまでにいたらなかったものについては記載できなかった。

第1表 指定蚕品種の系統表

a. 春蚕用品種

No.	品 種 名	選出育成者	系 統		指 定 期 間	特 徴
			日 本 種	支 那 種		
1	太平×長安	日本蚕糸製造	日115×日9	支108より系統分離	昭21~	
2	豊光×新玉	郡是製糸	日114より系統分離	支114×満月	22~38	
3	昭白×新光	鐘淵紡績	—	支109より系統分離	22~35	
4	三光×支21号	蚕糸科学	支那3眠蚕×欧州黄繭種	漢口繭繭×満月	23~33	3眠蚕品種
5	太白×銀鐘	鐘淵紡績	—	—	24~31	
6	白・馬×天・竜	片倉工業	白…日115より系統分離 馬…日115より系統分離	天…支108より系統分離 竜…支108より系統分離	24~32	4元雑種
7	富岳×大宗	"	日115より系統分離	支108より系統分離	24~31	
8	蓬萊×千華	昭栄製糸	—	—	24~32	
9	神白×豊円	神栄生糸	F 6 × C 9	浙江より系統分離	24~29	
10	日光×万華	昭栄製糸	—	—	24~33	
11	日122号×支122号	政 府	日123×日115(新)…B系	{(支13×支15)×支110} ×満月	24~35	
12	(日122号(細)×支122号(細)) 日122号	"	日122(細)…日122より 系統分離	支122(細)…支122より 系統分離	26~33	3元雑種
13	(改日122号×(良支122号)) 日122号	蚕糸科学	改…B 3 × 日122	良…竜×支122	26~35	4元雑種
14	(日122号×刀水) 秀峰	群馬蚕試	—	支108×長安	26~33	3元雑種
15	旭光×雪花	郡是製糸	三光×N(日本種)	支21×1化性支那種	26~	3眠蚕品種
16	鈴峰×白雅	龜山製糸	秋花×日本2化	—	27~	
17	(日122号(太)×支122号(太)) 日122号	政 府	日122(太)…日122より 系統分離	支122(太)…支122より 系統分離	28~33	3元雑種
18	善光×清月	長野蚕試	(分離白2号×日122) ×分離白2号	(支108形×支122)×支 108形	28~35	
19	綾光×神月	神栄生糸	日122×W5	支113(新)×C69	28~33	
20	永興×光安	日本レイ ヨン	—	—	28~33	
21	信州×錦	長野蚕試	(善光×分離白2号) ×分離白2号	清月より姫を分離固定	29~34	
22	春月×宝鐘	鐘淵紡績	(昭白×日122改良) ×秋花	新光より系統分離	29~	
23	群馬×錦水	群馬蚕試	(日122×秋花)×日122	刀水より系統分離	30~35	
24	瑞光×銀白	蚕糸科学	秋花×日122	C9×竜	30~44	
25	日124号×支122号(太)	政 府	日122(太)×秋花	前出	30~	
26	日501号×支502号	"	日122(細)より系統分離	N76(満月系)より系統分 離	30~43	ラウジ ネス品 種

No.	品 種 名	選出育成者	系 統		指 定 期 間	特 徴
			日 本 種	支 那 種		
27	白嶺×(銀・河)	大 竜 社	—	—	昭 31~35	3元雑 種
28	春花×光嶺	片倉工業	秋花より系統分離	銀嶺より系統分離	32~38	
29	富・国×大・安	蚕糸科学	富…瑞光より系統分離 国…瑞光×日122	大…銀白より系統分離 安…長安より系統分離	32~43	4元雑 種
30	郡白×平安	郡是製糸	日114×日122…A系	銀白×2化性支那種	32~	
31	大山×錦江	日本レイ ヨン	—	—	32~38	
32	日125号×支25号	政 府	日124より系統分離	支21より系統分離	33~43	長糸長 品種
33	(春 昭光)×(新 栄華)	昭栄製糸	春…改より系統分離	—	33~39	4元雑 種
34	日124号×(高 支122号(太))	高 原 社	前出	—	33~39	3元雑 種
35	研光×春白	蚕糸科学	瑞光より系統分離	銀白より系統分離	34~	
36	陽光×麗玉	昭栄製糸	昭光より系統分離	—	34~	
37	武甲×春雪	埼玉蚕試	日122改良系×秋花改良 系	支122(太)×錦	34~40	
38	一白×五光	片倉工業	太平より系統分離	長安より系統分離	34~40	
39	みやま×ひかる	群馬蚕試	太平×秀峰	(支115×明月)×支115	35~41	
40	志賀×美鈴	長野蚕試	日122×金峯	清月×良	35~41	
41	ふじ×さくら	片倉工業	太平×(白×馬)	長安×(天×竜)	35~	
42	日新×和光	鐘淵蚕糸	—	—	35~41	
43	玉光×銀白	蚕糸科学	(瑞光×秀峰)×日124	前出	36~41	
44	神光×栄玉	神栄生糸	綾光より系統分離	神月より系統分離	36~39	
45	日127号×支127号	政 府	日124より系統分離	N91B×銀白	37~39	
46	郡宝×春玉	郡是製糸	日114×日122…B系	新玉×1化性支那種	37~42	
47	日128号×支128号	政 府	日122(太)×春月	支127×新	38~43	
48	神春×栄月	神栄生糸	日119×NR	神月より系統分離	38~	
49	春山×宝玉	高 原 社	—	—	38~43	片限性 品種 (支那 種)
50	大豊×万白	千 曲 社	(信州×永興)×信州	錦より系統分離	38~44	
51	共栄×新白	蚕糸科学	国光より系統分離	研白より系統分離	40~	
52	日129号×支129号	政 府	(瑞光×光)×L日7	(支108×錦水)×さくら	40~44	低練減 品種
53	青山×秀白	埼玉蚕試	武甲×信州	春雪×新	40~44	
54	日130号×支130号	政 府	日502×NL9	麗玉より系統分離	41~	
55	大栄×春宝	長野蚕試	日124×善光	研白×C101	41~	

No.	品 種 名	選出育成者	系 統		指 定 期 間	特 徴
			日 本 種	支 那 種		
56	郡華×芳春	郡是製糸	日114×日112…C系	平安×1化性支那種	昭 41～	両限性 品種
57	日131号×支131号	政 府	(限性形×日502)×日129	(限性形×支503)×月光	42～	
58	春嶺×鐘月	鐘淵織維	春月より系統分離	—	43～	

b. 夏秋蚕用品種

No.	品 種 名	選出育成者	系 統		指 定 期 間	特 徴
			日 本 種	支 那 種		
59	日123号×支123号	政 府	36×日115	(松支17×支108)×支108	昭 21～28	4元雑 種
60	長・光×信・和	長野蚕試	—	—	21～39	
61	梁日×支川	福島蚕試	—	—	22～28	
62	金峰×有明	熊本蚕試	(分離白2号×日112)×分 離白2号	(精光×支106)×支106	22～30	3元雑 種
63	春光×(銀月 秋月)	郡是製糸	日115新×日112	銀月…新玉より系統分離 秋月…支110×支108	24～29	
64	秋花×銀嶺	片倉工業	日115×大造	支108より系統分離	24～39	
65	秀峰×明月	群馬蚕試	日115×日119	支108×有明	25～33	片限性 品種 (支那 種)
66	日122号×支115号	政 府	前出	CKW510×(関33×沖2)	26～36	
67	秀光×銀玉	郡是製糸	日122×2化性日本種	支116×銀月	29～33	
68	信州×白雪	長野蚕試	前出	(錦×支115)×錦	30～34	4元雑 種
69	錦秋×鐘和	鐘淵紡績	春月より系統分離	宝鐘より系統分離	30～	
70	松・花×山・晴	高原社	—	—	30～41	
71	日501号×支501号	政 府	前出	支122(細)より系統分離	30～34	ラウジ ネス品 種
72	千秋×万古	片倉工業	日12×国一	満月より系統分離	30～36	ラウジ ネス品 種
73	日124号×支124号	政 府	日122(太)×秋花	70×AC512(支115)	30～	4元雑 種
74	郡光×万里	郡是製糸	豊光より系統分離	新玉より系統分離	32～	
75	(日122号×(支115号 日124号×(支124号	政 府	前出	前出	32～	
76	昭光×栄華	昭栄製糸	秋花×日欧固定種	支115より系統分離	32～44	4元雑 種
77	栄宝×秋玉	神栄生糸	秋花×N 5	支113(新)×C76	32～38	
78	豊年×研白	蚕糸科学	瑞光より系統分離	銀白×新光	33～	
79	新星×秋白	片倉工業	太平より系統分離	長安より系統分離	33～36	

No.	品 種 名	選出育成者	系 統		指 定 期 間	特 徴	
			日 本 種	支 那 種			
80	郡嶺×紫水	郡是製糸	秀光より系統分離	新玉より系統分離	昭 33~36	ラウジ ネス品 種	
81	秋山×月光	片倉工業	太平×秋花	長安×銀嶺	34~40		
82	豊白×銀竜	鐘淵蚕糸	—	—	34~40		
83	日502号×支503号	政 府	日122×J 4	刀水より系統分離	34~43		ラウジ ネス品 種
84	日502号×支125号	政 府	前出	支16×支502	37~43	黄蘗品 種	
85	日126号×支126号	"	日124より系統分離	支124より系統分離	37~		
86	しなの×たかね	長野蚕試	秋花×日122	支108×A(信)	37~43		
87	国光×精白	蚕糸科学	秀峰×日124	支124より系統分離	39~		
88	青山×月花	埼玉蚕試	前出	支124×和	39~44		
89	信山×曲江	長野蚕試	秋花×瑞光	C 38×支124	39~44		
90	秋光×竜白	片倉工業	日115×太平	支115×銀嶺	39~		
91	信光×長白	長野蚕試	信山×日124	曲江×C 38	40~44		
92	豊山×銀光	鐘淵蚕糸	—	—	40~		
93	神秋×栄白	神栄生糸	神光より系統分離	秋玉より系統分離	40~		
94	多摩×綾錦	蚕糸科学	(秀峰×日124)×日124	(W支1×精白)×121	41~		片限性 品種 (支那 種)
95	栄山×豊秋	千 曲 社	(金峰(姫)×秋花)×金峰 (姫)	白雪より系統分離	41~		
96	明星×北斗	蚕糸科学	(豊年×日124)×日支固 定種	A 3(研白系)×研白	43~		
97	日132号×支132号	政 府	ふじ×陽光	{(支124×銀白)×研白} ×ひかる	43~		
98	(日128号(改)×(支133号 日133号)×(支134号 日134号)	"	日128(改)…日128より改 良 日133…(N179×春月)× 日122	支133…支124×銀白 支134…(支124×銀白) ×さくら	44~		4元雑 種
99	昭宝×麗白	昭栄製糸	—	万華より系統分離	44~		
100	浅・嶺×香・玉	長野蚕試	浅…日124×信光 嶺…日124×大栄	香…たかね×C 38 玉…たかね×研白	44~		4元雑 種 片限性 品種 (支那 種)
101	秋芳×銀花	片倉工業	日115×秋山	支116×支108	44~		

第2表 日115号および支108号を基礎品種として育成された蚕品種ならびにそれらのうちの優良品種を基礎品種として育成された蚕品種

a. 日本種

日 115 号		日 122 号		秋 花		日 124 号	
No.	品 種 名	No.	品 種 名	No.	品 種 名	No.	品 種 名
1	太 平	12	日 122 号(細)	16	鈴 峰	32	日 125 号
6	白	13	改	28	春 花	43	玉 光
6	馬	17	日 122 号(太)	36	陽 光	45	日 127 号
7	富 岳	18	善 光	76	昭 光	51	共 栄
11	日 122 号	19	綾 光	77	栄 宝	55	大 栄
38	一 白	23	群 峰	89	信 山	85	日 126 号
39	み や ま	24	瑞 光			87	国 光
41	ふ じ	25	日 124 号	計	6	91	信 光
59	日 123 号	26	日 501 号	対調査 品種割合	7.3 %	94	多 摩
63	春 光	29	富 国			100	浅 嶺
64	秋 花	29	郡 白			100	嶺
65	秀 峰	30	郡 甲			計	11
79	新 星	37	武 賀			対調査 品種割合	13.4 %
81	秋 山	40	志 光				
90	秋 光	44	神 宝				
101	秋 芳	46	郡 128 号				
計	16	47	郡 華				
対調査 品種割合	19.5 %	56	秀 光				
		67	日 124 号				
		73	郡 嶺				
		80	日 502 号				
		83	し なの				
		86	神 秋				
		93	日 128 号(改)				
		98	日 133 号				
		計	26				
		対調査 品種割合	31.7 %				

b. 支那種

支 108 号				支 122 号		銀 白	
No.	品 種 名	No.	品 種 名	No.	品 種 名	No.	品 種 名
1	長 安	59	支 123 号	12	支 122 号(細)	30	平 安
2	新 玉	63	銀 月	13	良	35	春 白
4	支 21 号	63	秋 月	17	支 122 号(太)	45	支 127 号
6	天 竜	64	銀 嶺	37	春 雪	51	新 白
6	竜	65	明 月	71	支 501 号	78	研 白
7	大 宗	72	万 古				
11	支 122 号	74	万 里	計	5	計	5
14	刀 水	79	秋 白	対調査 品種数 割合	5.9 %	対調査 品種数 割合	5.9 %
18	清 月	80	紫 水				
21	錦 錦	81	月 光				
23	錦 水	86	た か ね				
24	錦 白	101	銀 花				
26	支 502 号						
28	光 嶺	計	31				
29	大 安	対調査 品種数 割合	36.5 %				
29	五 光						
38	さ く ら						
41	支 129 号						
52							

調 査 結 果

この調査は第1表に示すとおり昭和21年より昭和44年までに国の指定品種となったものについて、それぞれ選出育成者、原種（日本種、支那種）の系統、指定期間などを調査したものである。

しかし前述のような理由から原種の系統については調査することのできなかつたものがいくつかあったが、これらの品種もこの調査結果からみて、ほぼ同じような系譜に属するもので、とくにかげ離れた基礎品種をもとにして選出育成されたものではないだろうと推察される。

この調査でもわかるが蚕育種の常法とされている純系分離法と交雑固定法とが時と場所に応じて巧みにとり入れられて優良品種の育成に成功していることである。

すなわち、一つの優良なる指定品種の育成に成功した場合は、その品種をさらに目的形質別に系統分離を重ねてさらに新しい品種の作出を行なうとか、あるいはその優良品種を

基礎品種に使い、別の品種との交雑によってさらに新しい優良品種の分離固定に成功している。

また、同じ基礎品種を使っても選出育成者によって、それぞれ目的形質の違いとか、選抜淘汰方法の相違などから必ずしも同じ品種が育成されてはいない。

とくにこの調査によって明らかになったことは、戦後におけるわが国の蚕品種は日本種は日115号、支那種は支108号を源流として改良発達が行なわれたといっても過言ではないほど、この両品種が数多くの優良品種の基礎品種となっているということである。

日115号は旧名を栄光といて、昭和6年に片倉製糸株式会社が(種ヶ島×青熟)×正白から選出育成した品種である。

支108号は旧名を満月といて、大正12年に片倉製糸株式会社が支那2化性種から淘汰選抜したといわれる品種である。

これらの交雑種栄光×満月は、主として夏秋蚕用品種として広く飼育された。昭和14年から原蚕種管理法により、日115号×支108号と改名され、その後も広く全国に重用された。

第2表は日115号および支108号が基礎品種としていかに多く導入されて、その後の優良品種の作出に貢献しているかをみるために、第1表からまとめたものである。

日115号から直接系統分離によって育成したもの、および日115号を基礎品種に導入して交雑し、分離固定して作出したものが日122号ほか15品種で、系統調査の出来た日本種の19.5%である。次に日122号を基礎品種として選出育成したものが日124号ほか25品種で31.7%と多く、日122号がすぐれた品種であることを物語っている。さらに日124号を基礎品種として選出育成したものが11品種で13.4%にあたる。

支108号においても支108号を基礎品種として選出育成したものが支122号ほか30品種で、系統調査の出来た支那種の36.5%にあたり、次に支122号を基礎品種に使ったもの5品種(5.9%)、銀白を使ったものが5品種(5.9%)である。

このように日115号および支108号の優良形質は次から次へと引き継がれて行くとともに、さらに優秀なる品種との結合によって、一層優秀な品種へと改良発達されていっている。

第1図、第2図は日115号および支108号を中心に、これらと関連ある指定品種の系譜を図示したものである。

縦実線の長さで指定期間をあらわした(品種名から丸印までの年次)。ただし、現在なお指定中のものは2重丸を付して継続中であることを示した。

なお、品種名の左肩の数字は第1表の品種通し番号である。

これをもてもいかに多くの品種が直接、間接に日115号および支108号の影響を受けているかがわかる。

おわりに

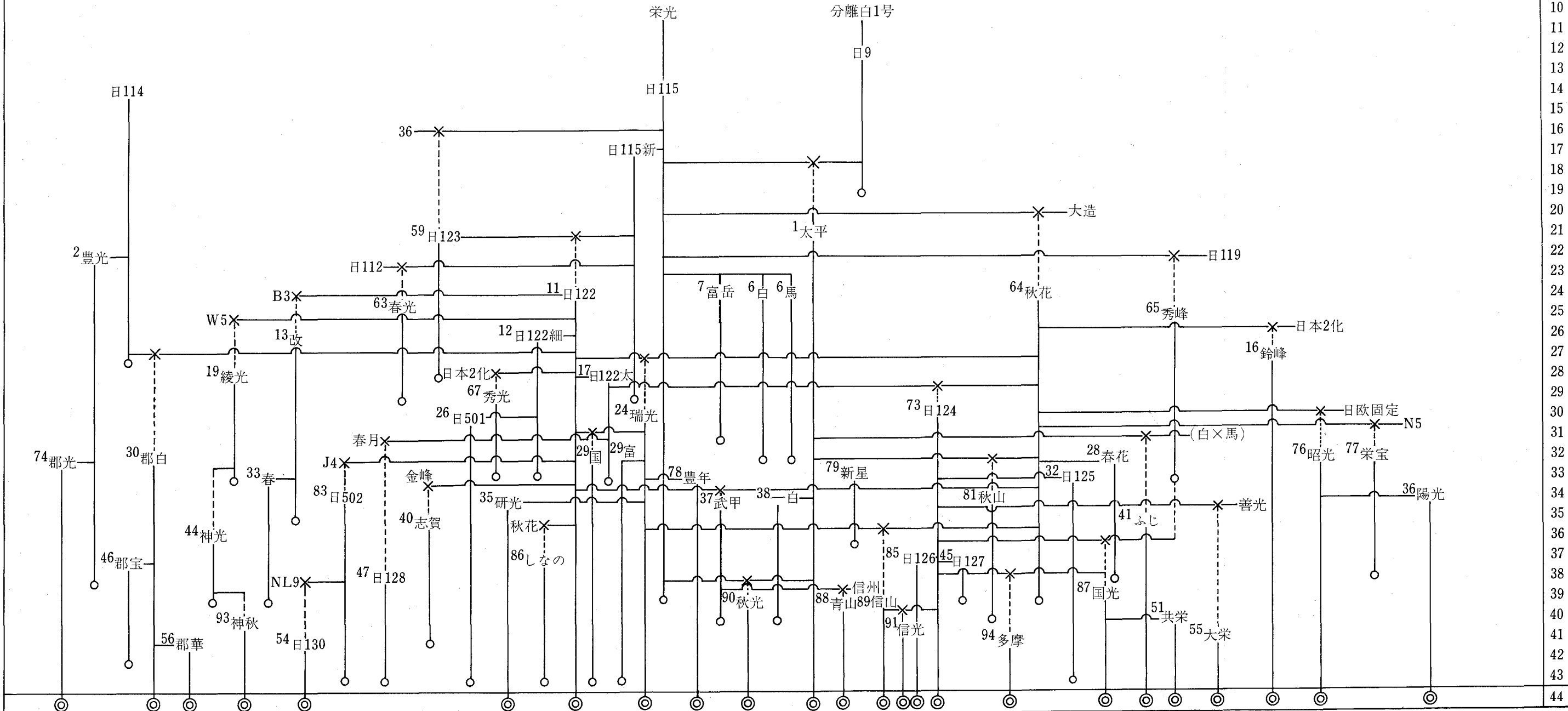
最近の蚕品種は高度に改良されてきたが、どの品種も非常によく似てきたといわれている。

これには種々の理由があると思われるが、まず次のようなことが考えられる。

(1) 蚕品種の改良が高度に進んだためにすべての品種が高い水準において競い合ってい

年次
昭和9

10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44



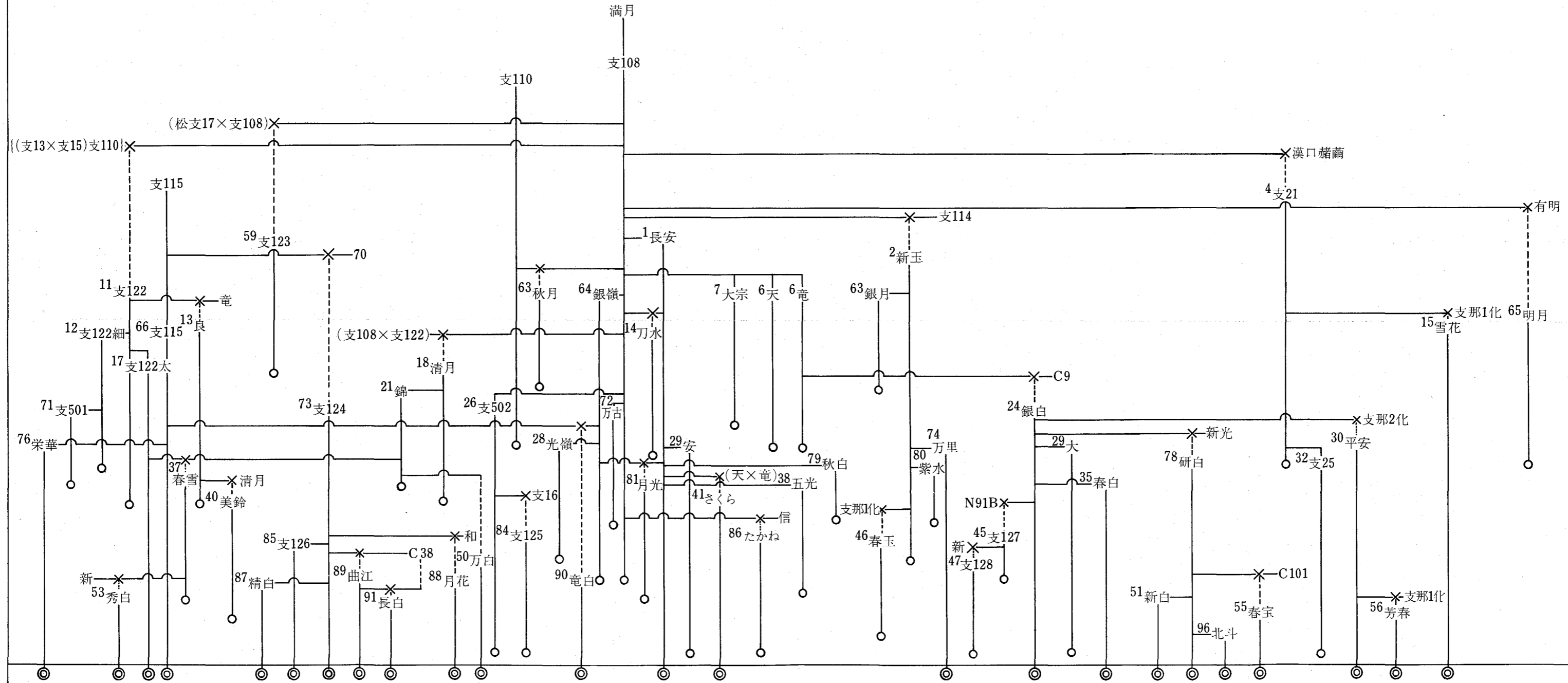
年次
9

10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44

第1図 日本種の系統図

年次
昭和 9

10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44



年次
9

10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44

第2図 支那種の系統図

る関係から各形質とも優劣の差がなくなって近似してきている。

(2) 蚕品種には法律で定められた指定制度があり、国が品種を指定する場合、対照品種を標準とするとともに蚕品種の重要形質に厳しい基準を設けて、この基準以上でないと指定品種としないことになっているので、必然的に蚕品種は一つの規格品化し、類似的なものになる。

(3) 現在の蚕品種の育成にはほとんどが交雑固定法がとられている。その場合導入する基礎品種は本調査でも明らかのように優良と思われる現行蚕品種が多くの育成者に同じようにとりあげられている。

この方法は指定品種の育成方法としては捷徑と考えられているが類似的品種を作る大きな原因をなしているといえる。

以上のような事柄が原因となり結果となって巨視的にみる場合には蚕品種の類似性が高まってきているといえる。

しかしこれを詳細にみる場合には、たとえ同じ基礎品種を使った場合でも選出育成者によりそれぞれ淘汰選抜の方法や、育種目標の相違から優良形質の取り入れ方が異なってくるので、育種される品種はおのおの特徴を有するものとなっている。

なお、ときには優良形質のみでなくて、好ましからざる形質をも一緒に取り入れてしまう例も往々あって、これがかえってその品種の特徴ともなっている。

蚕品種の至上命令が優良生糸の安価生産に適するものであるとするならば、等しく同じ目的に向って改良が進められているわけであるから、蚕品種の諸形質は次第に収斂されてきて近似性を高めるのは当然のことであるが、将来蚕品種が大きく進歩発達するためには今までどおりの基礎品種の導入を繰り返すだけでなく、もっと大胆に異質のものを取り入れて従来の慣習を破る必要があると考えられる。

参 考 文 献

- 1) 平塚英吉 1961. 近代蚕品種育成記録, 蚕糸科学研究所
- 2) 平塚英吉 1966~1969. わが国蚕品種の実用系譜Ⅳ~Ⅶ 蚕研彙報(14)~(17)
- 3) 平塚英吉 1969. 日本蚕品種実用系譜 蚕糸科学研究所
- 4) 真野保久 1968. 日129号, 支129号の育成 蚕試報告 22(3)
- 5) 真野保久 1969. 限性品種日131号および支131号の育成 蚕試報告 23(5)
- 6) 中里 延 1954. 蚕品種日122号及び支122号育成経路 蚕糸界報 63(736)